

「うめだ火曜会」が開催されました

星野 裕成

2013年7月9日の夕方からビジネス交流研究会（通称：うめだ火曜会）が開催されました。この会は大阪の上場企業の管理部門に勤務する方々の交流と勉強会を目的として宮川先生が主催している研究会です。将来のCFOや経営幹部を目指す人材が集まり、現状の問題意識を共有しながらアイデアを出し、議論を交わす場になると同時に上場企業の経営に必要なコーポレートファイナンスや戦略論の知識をわかりやすく学ぶ勉強会&食事会です。



今回の研究会の議論テーマは「財務スラック」です。毎度ゼミ生がお手伝いとして参加しており、大学院で「財務スラック」について研究中の國信さん、昨年度グループ論文にて同テーマを扱った4回生の苅谷、星野、松野が参加しました。

財務スラック（financial slack）とは、企業が財務的な余裕を維持するような財務戦略です。宮川先生が「財務的ゆとりを持つことの意義～企業のイノベーションと財務スラック～」と題し講演を行い、その後、私たちがグループ論文「Slack型R&D戦略が企業価値に及ぼす影響」の発表を行いました。各企業の財務を担当する方々を前に発表を行うことは大変緊張するものですが、「いつもどおりやろう」という気持ちでメンバー一同気持ちよく発表できたと思います。

私たちの発表後は、宮川先生と参加者全体での議論です。現場から考えられる企業の財務スラックの意義や資本構成、研究開発の捉え方など、さまざまな議論が行われました。議論により財務スラックの意義を再確認しましたが、同時に現場と投資家の考え方に乖離があることも強く感じられました。ここには、普段のゼミで重要なキーワードとしてあがる「情報の非対称性」が大きく関わっているようです。参加者の方々だけでなく私たちにとっても非常に興味深い議論でした。

議論終了後は、場所を移し、企業の方々と学生が一緒になり交流会です。仕事の話から学生時代の話までさまざまなお話を伺うことができ、大変楽しかったです。他ではなかなか味わえない貴重な経験を通じ、今回もまた何かしら成長できたように思います。将来、立派な社会人としてこのような場で理路整然とした発言ができる人間になりたいものです。



本稿は大阪市立大学商学部宮川研究室ゼミ生の活動報告を目的として本学学生が作成したものです。本稿に掲載される個人名や企業名はご本人のご協力を得て掲載許可をいただいています。ただし、内容については執筆者の主観的感想や主張が入っており、事実とは異なる場合があります。本稿の目的以外にご使用にならないようお願いいたします。